

第2章では、基本的なベッティングアクションについて考察したうえで、基本的な戦略を紹介します。この章では、なぜベットをするのか、どういった場合にベットするのが適切かについて説明するとともに、ポーカーで勝つために不可欠な「アグレッション（積極性）」の重要性について説明します。さらに、利益の最大化、損失の最小化に必要な「ポットコントロール」という概念についても説明します。

♠ 2-1 ベット・レイズ・コール

ポーカーのアクションには、ベット、レイズ、コール（チェック）の3種類があります。

(1) ベット、レイズ

ベットは、自分のハンドが勝っていると思う場合、ベットすればポットを取れる場合などに、**利益を最大化するために行われる**ものです。

レイズは、先に自らのハンドの強さを主張している相手のベットに対して、さらにベットを重ねるものなので、一般的には、レイズの際には、ベットするときよりもより強いハンドが必要となります。

デビッド・スクランスキーは、『The Theory of Poker』において、レイズする理由を次のように要約しています。

- ① ベストハンドを持っているプレイヤーが、より多くのチップを獲得するため。
- ② ベストハンドを持っているプレイヤーが、相手をフォールドさせるため。
既に完成したハンドを持っていて現時点ではベストハンドを持っている場合、レイズをすることでドローハンドを持っているプレ

イヤーをフォールドさせ、ハンドをプロテクトすることができます。

③ ブラフやセミブラフをするため。

弱いハンドやドローハンドでレイズをすることで、よりよいハンドを持っているプレイヤーをフォールドさせることもできます。セミブラフの場合には、コールされたとしてもドローハンドを完成させることでより大きなポットを獲得できる可能性もあります。

④ フリーカードを得るため。

ポジションがある場合に、ドローハンドでレイズをすることで、次のラウンドにおいて相手がチェックをする可能性が増し、ドローを完成させるためのフリーカードをさらに得ることができるかもしれません。

⑤ 情報を得るため。

ベットにコールされた場合、相手のハンドの強さについて情報が得られます。コンティニュエーションベットやインフォメーションベットをすることによって、相手がコールしたりレイズしてきた場合には、相手のハンドがある程度強いということが分かるのです。もちろんその場でポットを取れる可能性もあります。

⑥ ドローハンドでベットされた場合に、ブラフでフォールドさせるため。

ドローハンドを持っているプレイヤーは、レイズされた場合にはフォールドする可能性が高くなります。

また、ハワード・レドラー（Howard Lederer）は、ベットの基本として、ベッティングするには理由がなければならず、その理由には、

- ① 自分がベストハンドを持っていると思っている
- ② 自分がベストハンドを作れると思っている
- ③ 相手のベストハンドをフォールドさせることができると思っている

といった理由がなければならぬとしています⁷。

自分がベストハンドを持っているときには、相手がコールできる最大の額をベットすることで、利益を最大化することができます。自分が現在ベストハンドを持っていて、ドロワーが見えている場合には、ベットすることでドロワーハンドを持っている相手をフォールドさせて、その場でポットを獲得することができます。また、ドロワーハンドでコールすることがオッズに照らして適切とされない額以上で相手がコールできる最大の額をベットすることにより、相手に誤ったコールをさせ利益の最大化を図ることもできるのです。

(2) コール

一方、コールについては、一般的には自らのハンドの弱さを示すアクションですが、概ね次のような理由から行うべきだとされています。

① より多くのカードを見るため

ドロワーハンドを持っていてポットオッズが合う場合には、コールすることが最適な選択となります。フォールドした場合には、本来得られるべき利益 (Equity エクイティ) を諦めてしまうこととなります。

② 損失を限定するため

ポットオッズがあるが後々の展開により損失を被る可能性もある場合には、コールしてポットを小さいままにしておくこと (ポットコントロール) によって、将来発生するかもしれない損失を限定することができます。

③ リレイズを避けるため

ポジションがある場合には、コールに留めておくことで、オリジナルベッターがリレイズするチャンスを奪うことができます。

④ 自分のハンドの強さを隠すため

非常に強いハンドを持っている場合には、コールをすることで自分のハンドの強さを隠し、相手がより多くのチップをポットに入れることを容易にし、より大きなポットを獲得できる可能性もあります。

⑤ ポットオッズをコントロールするため

コールすることで、レイザー以外の他のプレイヤーに対してコールするに値するポットオッズを与えることができます。例えば、非常に強いハンドを持っているプレイヤーがコールすることで、後ろのプレイヤーが本来ならばすべきでないコールをしてポットが大きくなる可能性もあります。

⑥ 後のベッティングラウンドでブラフをするため

先のベッティングラウンドでコールをして後のラウンドでブラフをする準備をすることもできます。このようなコールについては、「**フローティング**」とも呼ばれます。

7. Howard Lederer, Betting Basics, Full Tilt Poker Academy;
<http://academy.fulltiltpoker.co.uk/ja/lessons/video/17/>

♠ 2-2 アグレッション

(1) アグレッシブプレイの利点

アグレッシブ（攻撃的）にベットすることは、コールやチェックにはない大きな利点があります。前述のとおり、コールやチェックしかならない場合には、ポットを獲得する方法は、ショーダウンの時点でベストハンドを持っていることしかありませんが、ベットする場合には、ショーダウンの時点でベストハンドを持っていることに加え、相手がフォールドすればその場でポットを獲得できるという2つの勝ち方があるのです。

このことから、ポーカーにおいては、コールよりもベットやレイズをすることが推奨されます。ベット・レイズには、相手をフォールドさせることでポットを獲得することができるため勝率が増すということを数学的に推計する考え方として、「**フォールドエクイティ**（Fold Equity）」という考え方があります。

(2) フォールドエクイティ（Fold Equity）

勝負に参加しているプレイヤーにはそれぞれポットについて確率上の取り分というものが存在します。例えば、参加しているプレイヤーがそれぞれAKと99を持っている場合、AKのプレイヤーには40数%の勝率があり、99のプレイヤーには50数%の勝率があります。したがってこの時点での両者の「取り分」は、 $(ポット \times 勝率)$ で表すことができ、この取り分のことを「**エクイティ**」（Pot Equity ポットエクイティ）と言います。

ポットエクイティは、勝負に参加している限りは各プレイヤーが持っているものですが、ショーダウンの時点では、引き分けとならない限り、100% VS 0%となりますので、その割合に応じてポットが配分されることになります。

一方、勝負の途中でフォールドしてしまったプレイヤーのエクイティについては、フォールドした時点で失われてしまうこととなります。先ほどの例で言えば、ポットに参加している場合には、プリフロップの段階で99のプレイヤーには50数%のエクイティがあります。しかしながら、AKのプレイヤーが99のプレイヤーのレイズに対してレイズオールインをして99のプレイヤーがフォールドしてしまった場合には、この50数%のエクイティは失われ、逆にAKのプレイヤーのエクイティとなってしまいます。このようにプレイヤーがフォールドすることによりベットした相手に移転してしまうエクイティのことを「**フォールドエクイティ**（Fold Equity）」と言います。

前述のとおり、相手のほうが強いハンドを持っているときにフォールドさせるのも、ベットする主要な理由のひとつです。この場合に得られるフォールドエクイティは、その時点でのポットエクイティや自分がベストハンドを持っている場合に相手から転嫁することとなるフォールドエクイティと比べても相当大きなものとなります。

配られるハンドをただ漫然とプレイするだけでは、勝つことよりも負けることのほうが多くなります。相手のほうが良いハンドを持っているにもかかわらず、アグレッシブにベットすることによって相手をフォールドさせることができたなら、本来マイナスであった期待値をプラスの期待値に転換させることが可能となるのです。

リー・ネルソン（Lee Nelson）は、フォールドエクイティを自分のものにすることがノーリミットホールデムトーナメントにおいて不可欠だとします。また、アグレッシブなプレイヤーがトーナメントで勝つことが多い理由の一つは、コンスタントにフォールドエクイティを活用していることにあるとしています⁸。

相手の残りチップが少なくなれば少なくなるほど、相手がポットコ

8. Lee Nelson, Tysen Streib, Steven Heston『Kill Everyone: Advanced Strategies for No-Limit Hold'em Poker, Tournaments, and Sit-n-Gos』Huntington (2009), p.22.
※パンローリングより翻訳刊行予定

ミットの状態となってフォールドする可能性が低くなるため、フォールドエクイティは小さくなる傾向にあります。

(3) フィアエクイティ (Fear Equity)

アグレッシブにプレイすることの利点として、コールでは得られないフォールドエクイティが得られるだけでなく、「**フィアエクイティ** (Fear Equity)」と呼ばれるエクイティも得られることが挙げられます。

アグレッシブにレイズやリレイズをしてきたり、時には序盤であってもオールインをしてくるようなプレイヤーに対しては、普通のプレイヤーは恐れを抱き、相手にするのを避けようとするのが一般的です。自分が参加している勝負に、ベストハンドを持っている相手が自分を怖れて参加しなくなったり、本来ベットすべき状況でベットしなくなることによって得られるエクイティが「フィアエクイティ」です。フィアエクイティはテーブルイメージと呼ばれる用語とほぼ同義ですが、フォールドエクイティと同様、常に自分の側で確保しておくことが重要とされます⁹。

フィアエクイティを効果的に使うことで、テーブルをコントロールすることができます。テーブルコントロールによって多くのチップが集まれば集まるほど、その集まったチップがより強い武器となりフィアエクイティもより大きなものになるのです。

♠ 2-3 ポットコントロール

「**ポットコントロール**」とは、自分のハンドの強さに応じてポットサイズをコントロールすることを言います。ここで言う自分のハンドの強さとは相対的なもので、相手と比べてどの程度強いかということ

を意味します。したがって、タイトなプレイヤーを相手にする場合には、より強いハンドが必要となり、他方ルースなプレイヤーを相手にする場合には、より弱いハンドでもよいこととなります。

ポットコントロールの基本的な考え方は、強いハンドを持っているときはより大きなポットをプレイするようにし、弱いハンドまたは微妙なハンドを持っているときはより小さなポットをプレイするようにベット額を調整するというものです。

例えば、かなり強いと思われるハンドを持っている場合には大きくベットやレイズをしたり、JJでプリフロップレイズをした後フロップがすべてハイカードだった場合には、チェックをして不必要にポットを大きくしないようにすることなどです。フィル・ゴードン (Phil Gordon) の言うように「大きなハンドのときには大きなポットを、小さなハンドのときは小さなポットをプレイすべき」なのです¹⁰。

ポットコントロールが必要となる典型的な場面は、ショーダウンまでいっても勝っているかもしれないようなハンドを持っている場合です。このような場合には、ポジションのあるときは、ターンでチェックをし、リバーで相手からベットされた場合にもレイズではなくコールしたり、ポジションのないときは、チェックコールをするなどして、ポットを小さくしておき、不必要にリレイズを受けてベストハンドをフォールドせざるを得なくなるような状況を避けるべきです。

ポットコントロールは、ノーリミットホールデムにおいては、最も重要なスキルの一つとされます。チェック、レイズ、ベットを駆使することによりポットを適切な大きさに維持することで、利益を最大化し、損失を最小化することが可能となるのです。

9. 『Kill Everyone』Huntington (2009), pp.24-25

10. Phil Gordon『Phil Gordon's Little Green Book』Simon Spotlight Entertainment(2005), p.22 —邦題『フィル・ゴードンのポーカー攻略法 入門編』パンローリング刊

♠ 2-4 ミックスアップ

Theory of Pokerに従って利益を最大化するためには、相手のハンドを読むことも重要ですが、自分のハンドを読まれないようにすることも同じように重要です。そのために有効な方法の一つとして、自分のアクションをミックスアップする（混ぜる）ということが挙げられます。

強いハンドのときは強くベットして、弱いハンドのときはチェックかコールするということを続けていると、相手に自分のハンドを読まれて、自分が強いハンドを持っているときにはフォールドされて、弱いハンドを持っているときにはレイズされたりブラフされたりすることとなり、利益を最大化することも損失を最小化することもできません。このため、相手にハンドを読まれないための手段としてミックスアップが使われるのです。

ここでいうミックスアップは、ハンドの強さによってベットの額などを変えることを言うではありません。むしろ、ハンドの強さに関わらないプレイを織り交ぜることを言います。すなわち、強いハンドのときには大きな額をベットし、弱いハンドのときには小さな額をベットすることでミックスアップするのではなく、強いハンドでも弱いハンドでも強いハンド（または弱いハンド）と同じようにベットすることを言います。

例えば、ビッグペアのときにプリフロップで何回かレイズをしていた場合、次にはスーテッドコネクターでレイズしたりすることです。仮にレイズハンドでストレートを完成させたときには、相手がAAのようなビッグハンドを持っているような場合に、相手がこちらのハンドを予想することが困難になることから、非常に大きな利益をあげることができます。

仮にAAやKKのようなビッグペアばかりでレイズしている場合に

は、熟練した相手には、ハンドを読まれることになってしまいます。時にはスーテッドコネクターなどのハンドをビッグペアと同じようにプレイすることで、相手にこちらがスーテッドコネクターを持っていることを悟らせないだけでなく、こちらがビッグペアを持っている場合にも、相手がこちらのハンドを正確に読むことが困難になるというメリットもあります。また、通常はレイズで参加するような強いハンドでリンプするなどよく使われる手法です。

ハンドのミックスアップだけでなくテーブルイメージをミックスアップすることも有用です。序盤はタイトにプレイし参加回数を減らすことでイメージを作っておくと、中盤以降ルースにポットに参加することにしたとしてもポットをスチールすることが容易になったりします。逆に序盤にルースでブラフを多用するイメージを作っている場合には、ビッグハンドが入った場合にビッグベットをしたとしても、相手が中途半端なハンドでもコールしてくれるなど、ハンドの利益を最大化できる可能性も高くなることとなります。

♠ 2-5 セルフコントロール

利益を最大化し、損失を最小化するためには、アクションについて首尾一貫した論理性が必要となり、自ら決めた方針どおり自分をコントロールすることが重要となります。

例えば、7♠6♠でストレート、フラッシュまたはツーペア以上をキャッチするためにレイズにコールしたのに、フロップで7がヒットしただけで、相手のコンティニュエーションベットに「これはAKハイでブラフしているに違いない」と考えてコールしたり、A♥6♥でナッツフラッシュを狙いにいったのに、Aがヒットしただけで相手のベットにフォールドできなくなったりするのは、論理的な思考とは言えません。